

『環境問題常識テスト』

★以下の問題にチャレンジして、環境知識レベルをチェックしてみてください。〈答えは3面の最下段に掲載〉

1. 中小企業の地球温暖化対策を推進するため「経営課題の解決With省エネ」を基本コンセプトとして環境アクションプランを策定したのはどこか?
a. 環境省 b. 日本商工会議所 c. 経済同友会 d. 日本経済団体連合会
2. 環境問題のバイブルとも呼ばれる『沈黙の春』や『センス・オブ・ワンダー』の著者、海洋生物学者でもあったアメリカの作家は誰か?
a. カズオ・イシグロ b. レイチェル・カーソン c. アル・ゴア d. アーネスト・ヘミングウェイ
3. 明るすぎる看板照明などの人口光が、周囲の環境や景観、周辺住民の生活などに及ぼす悪影響のことを何という?
a. 照度汚染 b. ビームストライク c. 光害 d. バードストライク
4. 1975年7月に発効した「絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約」の通称は?
a. 京都条約 b. ウィーン条約 c. パリ条約 d. ワシントン条約

【環境市場新聞:H30.夏季第53号より転載】

『環境トピックス』【1】

2018年になり、ペットボトルや廃プラスチック等の廃棄物が国内に滞留し始めている。圧縮された廃プラスチックの塊が保管場所に昨年1.5倍ほど積み上がっている状態が続いている。原因は2017年末から中国が廃棄物の輸入を制限し始めたことによる。日本のみならず米国や欧州等も同様の状況になっている。制限(輸入禁止)に至った背景には、廃プラスチックと生活ゴミが分別されないままプレスされたもの等の粗悪・悪質な貨物が輸入されていたことが挙げられている。環境汚染の深刻化から、中国国内の人体・環境の保護の為に措置と考えられる。ちなみに日本の廃プラスチック等の排出量は945万トンとされており、その14.8%が中国向けに輸出されてきたことになる。今後は、不法投棄に注意していくことや国内処理の強化が望まれているが、基本的にはスターバックスの取組みに見られるように、プラスチック製ストローの提供をやめる等のゴミの排出自体を見直す時期を迎えていると言えよう。

『環境トピックス』【2】

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、10月8日に特別報告書を以下のように公表している。「地球温暖化の影響で早ければ2030年(今から12年後)にも産業革命前からの平均気温上昇が1.5度に達し、サンゴ礁の大部分が死滅するなど地球環境の悪化が進む可能性が高いと予測」併せて「人為的な二酸化炭素(CO₂)の排出量を2010年比で2030年には45%減らし、2050年ごろには実質0にする「脱炭素化」の必要性を強く指摘し、積極的な植林やCO₂の地下貯留技術等で温度上昇が抑制可能である」ともしている。近年における、世界的な規模での猛暑や豪雨などの異常気象の増加、洪水や干ばつなどの深刻化等の地球環境に大きな影響が出る暗い見通しを払拭する、各国の厳しい温室効果ガス削減への取り組みが必要とされている。

『環境保全等へ向けた商品』

★当金庫お勧めNO.1商品★

カーライフプラン

最大1,000万円まで無担保、返済期間は最長10年まで!!

《エコカー購入などに利用できる変動金利型のカーライフプラン・エコの場合》

電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・低燃費かつ低排出ガス認定自動車等の環境に優しい新車のご購入を、金利引下げで応援します。



(平成30年10月1日現在)



川口信用金庫
http://www.shinkin.co.jp/ksb/

〒332-8686 埼玉県川口市栄町3丁目9番3号
TEL048-253-3333 FAX048-254-2665

このパンフレットは環境に配慮し、責任ある森林管理された「FSC®認証紙」にベジタブルインク(植物油インク)で印刷されています。



第12号
平成30年11月発行

かわしんの 環境活動報告書



かわしんはISO14001を平成16年5月に取得し、環境保全活動を実践しています。

川口信用金庫



JQA-EM4039
本部及び本店営業部

「かわしん」は 地域経済の発展と環境保全に貢献する 信用金庫を目指しています。

みなさん、こんにちは。

今年の夏は、熊谷市において国内の観測史上最高を更新する41.1度を記録するような猛烈な暑さに見舞われました。気象庁の見解では「命に危険が生ずる暑さが続き、もう『災害』である」との認識が示されました。

また昨年同様に、全国的に集中豪雨の被害が続き、台風も連続発生して日本列島に接近・上陸する機会が多くありました。全国の被害に遭われた方々には、心よりのお見舞いを申し上げます。

この様な地球温暖化に伴う異常気象の影響が懸念される現況下、川口信用金庫は社会的責任の一つとしてCO₂削減を掲げ平成30年7月には「ISO14001：2015年版」の新規格に移行、更新致しました。引続き電力使用量削減・紙の使用や廃棄物の圧縮等で、CO₂の発生を減少させる「環境負荷低減活動」を真摯に推進しております。

また、金融機関としての本来業務を通じて、環境に配慮した活動を行っている企業や個人に対して環境関連の金融商品を提供し、これからも地域経済の健全な発展と地域環境の保全に貢献して参ります。

今後とも皆様のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年11月

会長 日下 義章
理事長 木村 幹雄



環境方針

I. 基本理念

川口信用金庫は、「堅実公正な経営に徹し、地域社会の繁栄に奉仕する」を経営の基本とし、協同組織による地域金融機関としての社会的使命と公共的使命を自覚し、全役職員が一丸となって地域の発展と環境保全に積極的に取り組みます。

II. 基本方針

1. 当金庫が行う事業活動が、環境に影響を及ぼす要因を的確にとらえ、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を定めるとともに、定期的或いは諸条件の変化に対応し適宜レビューを行い、継続的に改善し、環境汚染の予防に取り組みます。
2. 前記事業活動が環境に影響を及ぼす要因の中で、特に、地域社会への貢献、中小企業経営再生支援、及び福祉・環境を大切にす地元金融機関を目指した活動に重点を置き、地域社会との連携を強化しつつ環境保全に取り組みます。
3. 環境に関連する適用可能な法的要求事項及び業界行動指針等、その他の要求事項を順守します。
4. 一人ひとりが環境問題に対する認識を深め、環境マネジメントシステムの効果をあげる為、その環境方針を全役職員、又は当金庫のために働く全ての人に周知徹底を図ります。
5. この環境方針を金庫内外に広く公開します。

私たちの環境目標 平成30年度目標

I. 環境に有害な影響を及ぼすものへの削減取り組み

1	電力の使用	平成30年度の電力使用量を平成21年度比▲7.00%削減する
2	廃棄物の分別と排出	廃棄物の分別を推進するとともに平成30年度の物件費(別に定める費目)を平成21年度比▲7.00%削減し排出量の削減を図る
3	紙の使用・廃棄	平成30年度の紙費用を平成21年度比▲7.00%削減する

II. 環境に有益な影響を及ぼすものへの取り組み

1	既存の環境関連金融商品の拡販
2	新規の環境関連金融商品の企画・開発・販売
3	OA機器の効率的活用
4	コンプライアンス及び信頼性・健全性の確保
5	顧客へのISO普及・支援
6	各種地域貢献活動の立案及び実行
7	環境関連のその他サービスの提供

『緑化推進事業』への協力

1. 「彩の国みどりの基金」に200万円寄付。県の環境保全活動に役立ててもらふ意図で今回で20回目の寄付、総額は4,250万円となりました。
2. 「フラワーロード 緑と花でつくる川口の元気!!」のスローガンの基、フラワースタンドの設置に協賛。川口市の緑のまちづくり推進に協力しております。



『まちのクールオアシス』への参加

埼玉県「まちのクールオアシス」推進事業に協力し、熱中症についての情報発信拠点として、また来店客の一時休息所を設置することにより、熱中症等のお客様の臨時避難所として、適切な対応を行う態勢を整えております。



『エコライフDAY2018』への積極的参加

川口市は『地球環境にやさしい心を育むまち』として、CO₂排出削減や地球環境保全の施策・取組を推進しています。その代表的な活動である「エコライフDAY」は、2000年に川口市で始まり全国で取り組まれています。かわしんは2010年からこのエコライフDAYに参加しています。平成30年6月に行われた取り組みには職員・家族549人が参加、CO₂削減量は56万3940グラムになりました。みなさんも簡単なチェックシートで生活の中で出来る環境への配慮を点検・実践できますのでぜひ参加してください。



『環境意識の啓発と徹底』

全職員はEMS(環境マネジメントシステム)カードを携帯しており、かわしんが掲げる『環境方針』『わたしたちの環境目標』『私たちの環境行動ルール』が記載されています。(環境目標は毎年更新しています)



『職員(内部監査員)への研修』

(財)日本品質保証機構(JQA)講師による、ISO2015年版新規格に対する理解を深めるために、内部監査員対象の研修を実施いたしました。



平成29年度の事業活動・環境活動

● 電力とCO₂排出量の削減

平成27年度から基準年度を「平成21年度」とし、より厳しい目標に挑戦しています。しかしながら今年は史上まれに見る猛暑の影響により、電力使用量は73万8497kWhとなり、基準年度と比較し9千kWh・14.3%増加しました。新本店になり冷房設備の稼働規模が増大したこと及び各営業店のCS顧客対応によるものですが、次年度に向けて見直し作業を厳に実施し、更なる削減努力を図ります。

● 廃棄物の削減

事業活動に投入した全ての資源は消費され・廃棄されることから、物品の購入金額から廃棄物全体量を把握しています。削減目標の基準年度である平成21年度(平成22年3月末)比にて、▲5.2%の目標に対して ▲8,371千円、▲6.27%減少致しました。目標は達成しており、今後も継続する所存です。(ISO更新時審査のストロングポイント評価を頂いております)

● 紙の使用

削減目標の基準年度である平成21年度(平成22年3月末)比にて、廃棄物全体のうち「紙の使用量」及び「排出量」について検証しました。基準年度比 ▲3,863千円、▲4.28%減少致しました。▲5.2%の削減目標に対し若干の未達でありましたが削減効果は持続しております。